

Ⅱ 研究の概要

1 研究主題について

☆研究主題：自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童の育成

～サブテーマ：英語活動の実践を通して～

2 研究主題及びサブテーマ設定の理由について

<教育の今日的な課題より>

インターネットの普及，国境を越えた人的交流の進展などにより，人々の活動範囲は格段に広がり，世界は急速に狭まってきている。日本でも，今の小学生が大人になる頃には，ますますグローバル化が進み，「外国に行かなければ英語は必要ない」とは言ってもらえない時代がくると言っても過言ではない。そこで，学校教育においては，時代の変化への創造的な対応が求められ，国際人として主体的に生きていく上で必要な資質や能力を養うことが求められている。

文部科学省は平成14年7月に「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」更に平成15年3月には「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の策定について」を発表し，国際的な共通語としての英語の重要性，それに児童の将来のため，我が国の一層の発展のために英語がいかに必要であるかを述べた。

また，現・小学校学習指導要領の中にも，「総合的な学習の時間」のなかで，「英語など外国語会話等を行うときには，小学校段階にふさわしい体験的な学習を行うように」と書かれ，英語活動を行う指針が示されている。

そして，昨年度末に出された新・学習指導要領には「外国語活動」が新設され，5・6年生の教育課程に位置づけ，年間35時間を行うこととなる。さらに内容の取り扱いについては，「英語を取り扱うことを原則とする」と書かれていて，いよいよ外国語活動（英語活動）が必修になるわけである。

以上のことから，本校の研究主題「自ら考えよく学び，生き生きと活動する児童の育成」及びサブテーマ「英語活動の実践を通して」は，このような社会的要請に合致するものであり，国際人として活躍する児童一人ひとりの可能性を広げるものであると考えられる。

<学校教育目標より>

本校は学校教育目標として，次の4項目を設け，調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指している。

- 自ら考え よく学ぶ子ども
- 思いやりのある 心豊かな子ども
- 命を尊び 心身ともに健康な子ども
- ふるさとを愛する 素直な子ども

上記の学校教育目標を具現化していくためには，子どもたちが主体的に活動する「体験的な学習の場」やお互いを思いやる心を育てる「コミュニケーション活動の場」を設定することが必要であると考えられる。そこで研究テーマ「自ら考えよく学び，生き生きと活動する児童の育成」を設定した。

<地域及び児童の実態より>

本校は八ヶ岳南麓に位置し、回りを田畑や森林に囲まれ、自然環境という点では大変恵まれている。児童の多くは保育園の頃からの顔見知りであり、保護者も相互に面識があり、地域全体で児童を教育していこうとする雰囲気がある。外国語、特に英語に関する言語環境を見ると、「清里」と言う観光地を近くに控えていることもあり、夏場を中心に多くの外国人観光客が当地を訪れている。また、清里を開拓するにあたって尽力されたポールラッシュ博士やキープ協会の存在も忘れてはならない。戦後復興の過程で、アメリカを中心とした様々な外国の文化が八ヶ岳南麓にもたらされ、一つの文化として根付いている。

児童は、明るく素朴で、少人数であるためか異年齢間でも仲良く協力して活動する。また、どの教科・領域においても、課題を正面からとらえ、意欲的に解決を図ろうとする態度をもっている。特に英語活動に関しては、意欲的で、生き生きと活動する姿が見られる。児童の実態調査においては「英語活動を楽しみにしている」と答えた児童が約8割以上で、ゲームや歌などを取り入れた英語活動を通して、外国の言語や文化に親しんでいると考えることができる。

<これまでの研究経過より>

平成15年度までの英語活動の取り組みでは、学習内容を含め、そのほとんどをALTに頼っていることが課題としてあげられた。そんななか、平成16年度・17年度の2カ年に渡り「レッツ・チャレンジ小学校英語活動推進事業」の指定を受けた。そこで、平成16年度は、本校独自の英語活動の年間指導計画を作成した。作成にあたっては英語を使ったゲームや歌を積極的に取り入れるなど、児童が英語活動に親しめるよう考慮するとともに、授業は学級担任が中心となって進めていくことを基本としながら、ALTの協力を得て行うものとした。更に、国際理解集会（年間2時間）を開き、外国の音楽や文化に触れる機会を作った。しかし、計画作成そのものに大変な時間を要したため、その全てを実践するまでには至らなかった。

それを受けて、平成17年度は、平成16年度に作成した年間指導計画を元に、実践・検証を行いながら本校としての英語活動のあり方を研究した。それにより、本校としての英語活動の授業が徐々に確立され、児童の実態調査においては「英語活動を楽しみにしている」と答えた児童が約80%に上り、外国の文化に親しんでいる様子をうかがい知ることができた。一方、中・高学年では、計画の半数の時数はALTを使わず、学級担任が単独で授業を行わなければならないため、その場合の教材・教具や学習環境等取りまなければならないいくつかの課題も明らかになってきた。

そこで、平成18年度は、“学級担任が単独で行う英語活動の授業”における内容、教材・教具、学習形態等の改善に重点を置いて研究を進めた。特に、英語での「話す・聞く」活動の場の工夫として、「クラスルームイングリッシュ」の研究及び実践を行った。英語により慣れ親しみ、また、子どもたちが英語を聞いたり、話したりする時間をいかに多く確保するか、という点から見ても「クラスルームイングリッシュ」の実践は大きな成果を上げた。そして、ALTに頼らない担任主導の英語活動のあり方が確立されてきた。一方で、6年間の系統性と年間指導計画の検討が不十分だった。

以上のような経過と「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の指定校となったことを受け、平成19年度は、これまでの研究の成果を振り返りながら、本校なりの英語活動のあり方をもう一度見直し、よりよい活動になるように研究を進めた。まずは、年間指導計画の改編を行った。5・6年生のこれまで16時間で設定してあった内容をふくませ全33時間の計画にした。さらに、1年生から6年生までのトピックや言語材料の系統性を見直し、6年間で何度も繰り返しながら（スパイラル的に）活動できるように改良を加えた。その結果、活動内容が充実してきたことは確かである。そして、その活動をよりスムーズに、快適に行うことができるよう会

議室を“イングリッシュルーム”としても使えるように環境整備も行った。児童の活動の様子を見ていると、その効果ははっきりとしていて、輝いた眼差しで、生き生きと活動していた。

そこで、今年度はこれまでの研究の成果を生かしつつ、昨年度再編した年間指導計画を実践・検証することでさらに研究を深めていくこととし、前記の研究主題及びサブテーマを設定した。また今年度は、「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の最終年度ということで、公開研究発表会を実施するとともに、全クラス自主公開授業を行うこととした。それによって、本校の英語活動の様子や研究の成果を広く地域に発信でき、かつ、たくさんのご指導をいただき研究を深めることができると考えたからである。さらに、今年度配布された「英語ノート（試作版）」を教材として取り入れることも確認した。本校の年間計画を基に共通するトピックでは、英語ノートの絵カードやCDなどを積極的に使い、その有効性を検証することとした。

3 研究仮説について

「英語活動において、子どもたちの興味・関心を生かした内容や、英語を楽しく聞いたり話したりする（コミュニケーション）活動の場を工夫することにより、自ら考えよく学び、生き生きと活動する子どもが育成されるであろう。」

① 研究対象の限定（領域・内容・場）

「英語活動において」

② 手だて・方法の明確化（手だて・工夫）

「子どもたちの興味・関心を生かした内容や、英語を楽しく聞いたり話したりする（コミュニケーション）活動の場の工夫」

○内容の工夫

（例）実生活に基づいた内容
他教科と関連のある内容

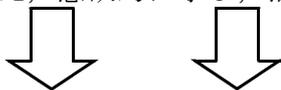
○場の工夫

（例）タスクやゲーム、絵本など楽しく活動できる方法を取り入れた場
雰囲気づくりや活動の補助的な役割をする掲示など環境の場

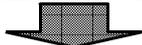
③ ねらいの明確化（めざす子どもの姿・ねらい）

「自ら考えよく学び、生き生きと活動する子ども」

- ・興味、関心を持っている。
- ・自ら考え、意欲的に学び、活動する。



☆主体的に、生き生きと活動する☆



積極的にコミュニケーションをとろうとする（英語を聞こうとする・話そうとする）

（目を見て・大きな声で・動作で）

4 研究内容について

中心となる研究

- ①公開研究発表会にむけての計画・準備・実践
- ②公開研究発表会の反省およびまとめ
- ③新しい教育課程の編成に向けての研究

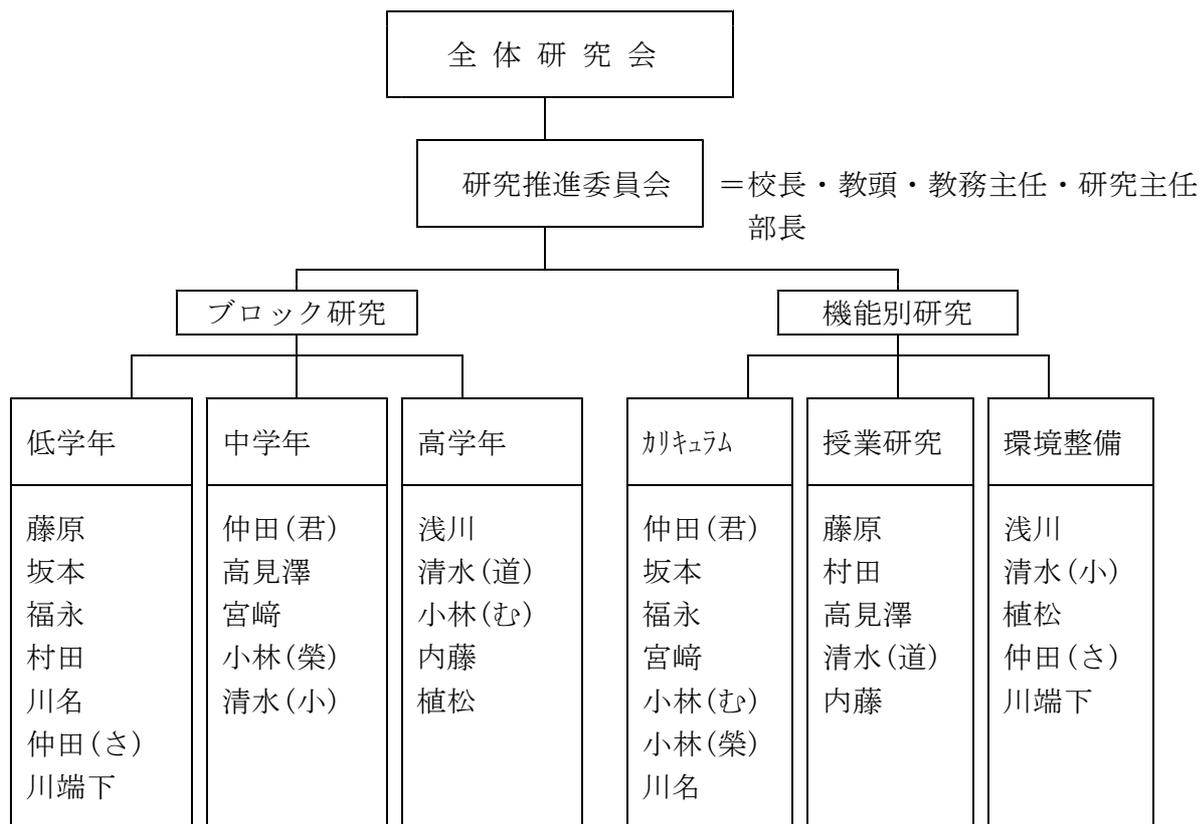
上記以外に

- ④英語活動の年間計画・指導案を元に実践を行い、学級担任単独あるいはT Tで行う英語活動の授業における英語での「聞く・話す」活動や内容、教材・教具、学習形態等をさらに工夫、新たなもの取り入れるなど改善を図る。
- ⑤英語活動の教材・教具、研究成果（資料）等、英語活動に関わる学習環境の整備。
 - 教材備品の管理・整理
 - 自作教材の保管コーナー設置
- ⑥上記に関わる理論研究

5 研究方法について

- 全教師の共通理解の上で授業実践を行い、反省・評価していく。
- 全体会・ブロック研・機能別研の3つの組織で校内研究を行うことを原則とする。
(ブロック研・機能別研は、研究組織参照。)
- ブロック研・機能別研は、研究推進委員が中心となり研究を進める。
- ブロック研・機能別研は年間行事予定に定められている校内研究日を原則とするが、各部長が中心となり必要に応じて随時開くものとする。
- 公開研究発表会での授業をもとに、指導主事等の指導を仰ぎ研究を深めていく。
- 研究推進委員会は、校長・教頭・教務主任・研究主任・部長で構成し、研究推進に関わる連絡調整等を行う。
- 研究推進委員会は、必要に応じて開く。
- 校内研に関わる諸会議は、原則として勤務時間内に終了できるように努める。
- 英語活動に関する実践は、昨年度のものを基本として、教材・教具や指導方法に更に改善を重ね（英語ノートや小学生英語活動ミニ手帳の活用等）、また、より先進的なものを発掘し、新指導要領実施に備える。
- 他校の公開研究会の参加にあたっては、本人の希望を優先しながらも、公務に支障がない範囲で行う。また全体会において、環流報告をする。
- 年度末に研究紀要を作成し研究の成果等を残す。

6 研究組織について



7 研究計画

< 1 学期 >

- ・研究の全体計画（研究主題・研究内容・研究計画等）の作成
- ・本校の「英語活動」に関する共通理解
- ・「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の共通理解

◎公開研究発表会の準備・実施

- ・英語活動年間指導計画の実践

< 夏期休業 >

- ・公開研究発表会の反省とまとめ
- ・新たな英語活動の授業内容，教材・教具や指導方法の発掘

< 2 学期 >

- ・新教育課程の研究
- ・英語活動年間指導計画の実践・検証・改善
- ・先進校公開研究会への参加と環流報告

< 冬季休業 >

- ・研究紀要作成に向けての原稿作り

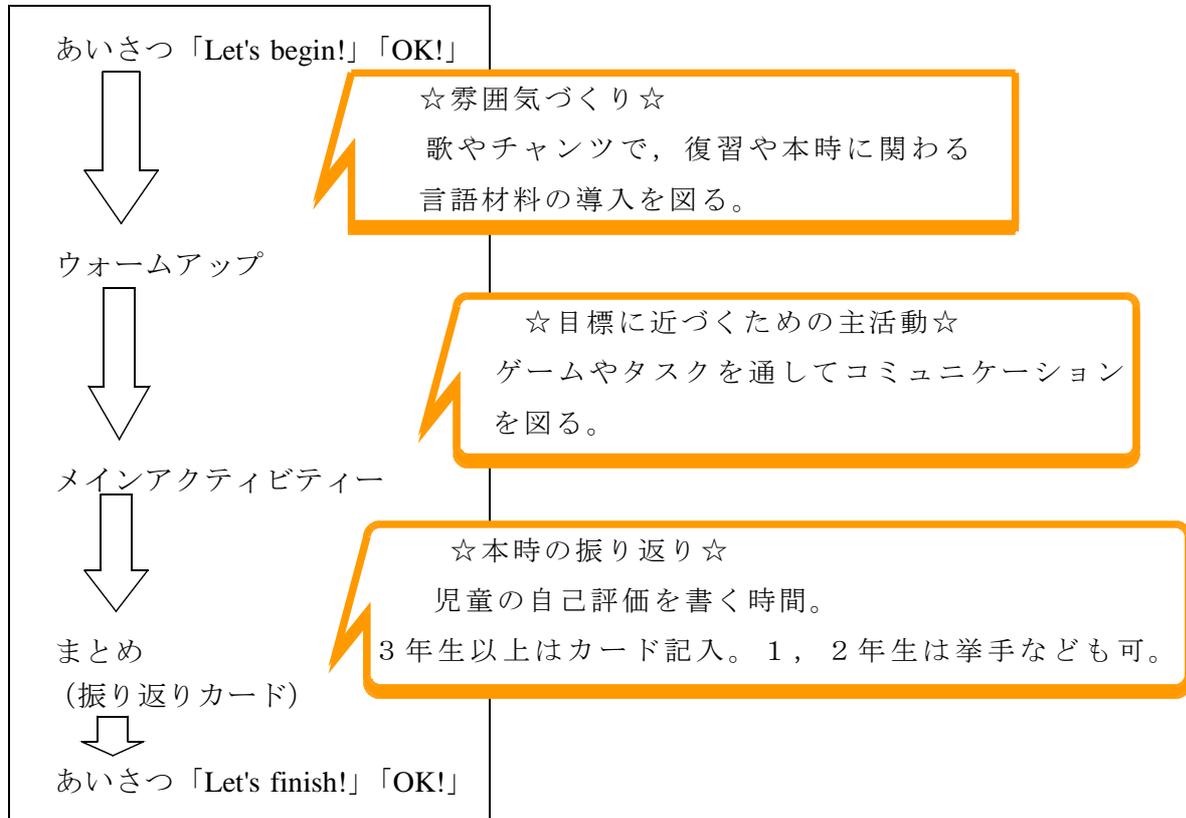
< 3 学期 >

- ・研究紀要の作成
- ・研究のまとめと次年度の研究の方向性の検討
- ・英語活動年間指導計画の実践・検証・改善

8 授業についての共通理解

- ・本校の英語活動の特徴は、『学級担任主導』で行うところにある。昨年度までに高根西小としての『学級担任主導』の授業について研究が進められた。それを踏襲して、以下のように共通理解をし、授業実践を進めた。

◇1時間の流れについて◇



※上のような基本的な流れの中に

☆**ゲーム的要素** or **歌・チャンツ** or **絵本**

☆『**Classroom English**』

☆『**any questions**』

を織り交ぜていく！

本時のねらいに関わって、「さらに知りたい英語の言葉や言い方」を中心に、より理解を深め・広げていけるようにするための時間。

(英語活動で使う振り返りカード)

英語ふりかえりカード

年 ()

月 日 () 今日活動したこと:

今日の英語活動は楽しかったですか？ とても楽しかった 楽しくなかった ----- ----- -----
あなたは今日の英語活動に意欲的に取り組みましたか？ とても取り組めた 取り組めなかった ----- ----- -----
感想 (もっと知りたいこと・やってみたいこと・質問 など) ----- -----

英語ふりかえりカード

年 ()

月 日 () 今日活動したこと:

今日の英語活動は楽しかったですか？ とても楽しかった 楽しくなかった ----- ----- -----
あなたは今日の英語活動に意欲的に取り組みましたか？ とても取り組めた 取り組めなかった ----- ----- -----
感想 (楽しかったこと・わからなかったこと・質問 など) ----- -----

◇評価について◇

- ・教師：英語活動を通し、自ら学ぶ児童を育成するのが目的であるので、研究仮説に照らし合わせ児童の意欲・興味・関心を中心に見取る。逆に言うと評価は指導と一体であるので、意欲・興味・関心が高まるような働きかけを行う。
- ・児童：振り返りカードで自己評価

上記の内容を念頭に置きつつ、下記のような観点および方法で評価を行った。

評価の観点	評価規準	低	中	高
関心・意欲 ・態度	①HRTやALT, 友達と楽しくコミュニケーションをしている。	○	○	○
	②HRTやALT, 友達と進んでコミュニケーションを図ろうとしている。	○	○	○
理解・表現	①どのようなことを話しているのか、大まかな内容を理解し、反応している。	○	○	○
	②HRTやALTを真似て、言葉や動作で表現している。	○	○	○
	③自分の気持ちを親しんだ言葉や動作で表現している。		○	
	④自分の気持ちや考えを親しんだ言葉や動作で表現している。			○
異文化理解	①外国の人や言葉, 文化にふれ, 興味をもっている。	○	○	○
	②日本と外国の文化の違いに気づいている。	○	○	
	③日本と外国の文化の違いやよさに気づいている。			○
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ●観察による見取り <ul style="list-style-type: none"> ・表情や動作 ・発言やつぶやき ・活動への参加の様子 ●振り返りカード 			

西小独自の評価方法

方法	場面	効果	留意点
any questions	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の途中 ・活動のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した言語材料をもとに、さらに詳しく知りたいことや他に知りたいことを取り上げ、活動内容を充実させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の時間内あるいは次の時間等で生かすことができるように内容を工夫する。
振り返りカード	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活動を振り返りながら次時への意欲をつなぐための自己評価となる。 ・児童が楽しく、意欲的に活動できたかを教師が確認、評価することができる。 ・質問や感想等をその後の活動に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間通して行い児童の関心、意欲などの変容を見ていく。



簡単な英語を堂々と！
短い単語でもメッセージを伝えられる！
ジェスチャーや表情を使って！

「This is my English」

という気持ちで楽しく子供たちと交流しましょう！

9 研究経過

月・日	研究形態	研究の主な内容
4月14日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの研究経過の概要 ・国際理解活動及び英語活動について ・わくわくイングリッシュ小学校サポート事業について ・本年度の研究の方向性 ・研究主題 ・研究主題とサブテーマの設定理由 ・研究仮説 ・研究内容 ・研究方法 ・研究組織 ・研究計画 ・授業についての共通理解 ・公開研究会について
4月25日	提案授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年1組 総合的な学習（英語活動） 題材名：「何しているの？」 授業者：小林 むつみ ・第6学年2組 総合的な学習（英語活動） 題材名：「天気の言い方になれよう」 授業者：内藤 茂樹
5月 2日	提案授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「職業の言い方になれよう」 授業者：清水 道晃
5月 7日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての共通理解 ・公開研究発表会までの予定
	ブロック研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会授業のトピック検討
5月12日	研究授業 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「好きな果物の名前をきこう」 授業者：高見澤 成美 Kasia (ALT) ・第4学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「今、何時？」 授業者：宮崎 克美 Kasia (ALT)
	全体研究会 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を通しての討議 ・指導主事への質問
	ブロック研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会授業のトピック及び内容の検討
5月19日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会授業のトピック及び内容の検討
5月26日	全体研究会 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会指導案の検討 (第5学年, 第6学年1組, 第6学年2組)
6月 9日	全体研究会 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会指導案の検討 (第1学年, 第2学年, 第3学年, 第4学年)
6月11日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会指導案の検討（最終確認）
6月27日	公開研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業（全クラス） ・全体会 ・講演会 演題：「外国語活動の在り方」 講師：文科省初等中等教育局教科調査官 菅 正隆 先生
7月 9日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究発表会の反省

8月18日	全体研究会 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の概要及び趣旨等の説明 ・教育課程研修会環流報告
8月22日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研修会環流報告
9月1日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の英語活動の展望 ・自主公開授業の計画 ・特別支援教育について
10月6日	全体研究会 ----- ブロック研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の見直し ・自主公開授業の計画 ・自主公開授業の活動案検討
10月20日	全体研究会 (指導主事招請)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての研修 「特別支援教育の動向と発達障害児への理解」 土肥 満 先生
10月22日	自主公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年2組 総合的な学習（英語活動） 題材名：「行ってみたい世界の国へ」 授業者：内藤 茂樹
11月10日	自主公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「数字を使って足し算引き算1」 授業者：宮崎 克美 Tegan (ALT)
11月17日	自主公開授業 (指導主事招請) ----- 全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 英語活動 題材名：「動物だいすき」 授業者：坂本 礼子 Tegan (ALT) ・第3学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「動物の言い方に慣れよう」 授業者：高見澤 成美 Tegan (ALT) ・自主公開授業の反省 ・他の拠点校の公開研究会の環流報告
11月26日	自主公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年 総合的な学習（英語活動） 題材名：「教科の言い方に親しもう」 授業者：清水 道晃
12月8日	自主公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年 英語活動 題材名：「動物」 授業者：村田 久陽 Tegan (ALT) 吉田 明子さん(VET)
12月10日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・自主公開授業の反省 ・他の拠点校の公開研究会の環流報告 ・年間指導計画の見直し
12月15日	自主公開授業	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年1組 総合的な学習（英語活動） 題材名：「オリジナル劇をつくろう」 授業者：小林 むつみ
1月14日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・自主公開授業の反省 ・年間指導計画の見直し
2月2日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の原稿検討 ・研究の反省とまとめ
2月25日	全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の反省とまとめ ・来年度の研究の方向性

※上記以外に低・中・高各ブロックでの指導案検討会を随時行った。